

# 高山・市民の森 森林教室実施報告書

## 「森の散策とミニクリスマスツリー」

令和3年 12月 12日

1 実施日時 令和3年 12月 12日(日) 10:00~14:30

2 参加講師名 NPO 森林インストラクターしずおか

担当者 大石、杉山

アシスト会員 青野、中川、高橋、矢下、小久保、越智、佐野

3 参加者 22人(大人 10人、子ども 12人)

### 4 概要

当初は、9家族32人の参加予定でしたが、キャンセルが相次ぎ、5家族 22人の参加となりました。急遽、班編成を組み直したうえで観察内容など練り直し、ドタバタでしたが何とか開始となりました。市内の小学校で新型コロナウイルスによるクラスターが発生したという報道が影響したのでしょうか?ともあれ、森林インストラクターが県内のあちらこちらで集めた木の実がふんだんにあり、種類も豊富で今回の参加者は幸運でした。とても素敵なミニクリスマスツリーや何やら動物、怪獣?もできました。

今日は、天気も良く比較的穏やかで、山頂からの眺めも良く、もちろん富士山も白い綿帽子をかぶり冬化粧した姿で輝いていました。参加者もインストラクターも気持ちの良い森林散策や素敵なネイチャークラフトで楽しい一日が過ごせました。

### 【森の散策】

今回は参加家族を4つのグループに分けましたが、0歳児が一人であとは3歳以上で元気がよく、中学生も参加してくれていましたので、コースは違うけれども、どの班も山頂を目指しました。どんな散策になったのか、各班の報告を見てみましょう。

#### (中川・矢下・越智担当)

お客様は幼稚園年少の男の子と0才の男の子とご両親の4名でした。お父さんは腰痛で0歳児と居残り、お母さんと年少さんの2名をイントラは3人で案内しました。

山案内は「森の恵」直近の急登コース、心配した年少さんが一番元気で赤い実探し。しかし痩せたフユイチゴだけしかない。困っていると、足下に落ちているヒノキやスギの実に興味に移り、サッカーボール(ヒノキの実)を拾い始めました。お母さんの話だと公園でも同じらしい。子供は、自然の中で自分で遊びを作る能力に長けている。

小休止、取ってきた樹(クロモジ・サンショウ・ミズメ・ヤブニッケイ)の香りを味わってもらい、人との繋がりの説明をしました。ミズメでは「お父さんに嗅いで貰うと腰にいいかな!」、サンショウでは「今夜はウナギかな?」と家庭の姿が見える様でした。頂上は視界良好、雪の富士山に感激していました。

カモシカには会えなかったけれど、森の楽しみは味わっていただいた様子でした。

(矢下 記)

(大石・杉山担当)

両親と子供 3 人の家族。お姉ちゃんは中学生で一番下の子は元気な男の子でした。この高山市民の森は初めてというので、今回は、高山市民の森の紹介を兼ねた森の散策を心掛けました。

普段は歩くことのない、巡視路の一部を歩いてもらいました。そこで、イノシシ、シカ、カモシカ、などの動物が、体についた虫や汚れを落とすために泥浴びをするヌタ場を見てもらい、そこに残る動物の足跡を見て、気配を感じてもらいました。また、以前の台風で、100 本以上の木が倒れた現場も見てもらい、自然の猛威を感じてもらいました。単層林は被害が拡大しやすいので、この高山市民の森は、広葉樹を植え、複層林に取り組んでいることを現地で説明しました。また、歩きながら、この山に産出するピクライト玄武岩を手に取り、カフスボタンにもなる珍しい岩石であることを説明しました。

山頂では、シカの糞を見つけ、写真を撮ったりして興奮気味でした。そばの木に鹿の角研ぎの跡もあり、動物の痕跡を身近に感ずることができました。

植物では、クロモジの香りやフユイチゴの味覚を楽しみました。スギとヒノキの葉の違いもしっかり覚えてもらいました。子ども達が特に興味を持ったのは、シカの糞以外にトウゲシバです。これをそっと叩き、埃のような孢子が飛ぶ様子を不思議そうに観察していました。

(杉山 記)

(佐野・高橋担当)

3班は2家族 8 名(子ども4人)のグループでした。

皆さん、高山市民の森へは何回か来訪されていましたが、中間展望台へは行ったことがなかったので行くことにしました。途中、赤い実を付けたガマズミがありました。ガマズミの実は、甘酸っぱくて食べることができることを話すと、早速「食べたい! 食べたい!」との声。しかし、手が届かない高い場所なので、残念ながら諦めました。話を変えて、赤い色をしている理由を考えてもらいました。女の子が「鳥に食べてもらうため」と正解を言ってくれました。そこで、赤い実をつける植物と鳥との関係について解説しました。

高山の池は、ひっそりと静まりかえり、生き物の気配は全く感じられませんでした。中間展望台に到着すると、素晴らしい景色に「すごーい!」の声。所々に、針葉樹と広葉樹の森がはっきりわかる場所があったので、森の違いを説明しました。小休止した後、山頂を目指して歩くことにしました。途中、クロモジの匂いを嗅いでもらったり、フユイチゴの実を味わってもらいました。また、ミツマタは枝が 3 つに分かれている特徴のある木なので、実物を観てもらおうと名前の由来に納得したようでした。

山頂に着くと、またその景色に感動。子ども達だけでなく、お母さん達も「ヤッホー! ヤッホー!」を連呼。大人も童心に帰ったようでした。雪化粧をした富士山も見えて、最高の景色でした。山頂付近にあったシカの糞や角こすり跡を観てもらい、森の恵に戻ることにしました。30分で戻らなければならないので、皆さん走るように坂道を下って行きました。所々コースの分岐点で待っていてはいたのですが、帰るコースがわかると走るようにして下って行きました。高齢のインストラクターが二人、最後尾に取り残されたような形になりましたが、無事、定刻時間までには戻ってくることができました。

天候にも恵まれ、素晴らしい景色が堪能でき、味覚、嗅覚を使った散策を楽しんでいただけ と思います。

(佐野 記)

(青野・小久保担当)

8歳と4歳の女の子、5歳の男の子と両親という5人家族を案内しました。高山はこれが初めてですが、今まで何回も応募してなかなか当選せず、初めての当選だったとのことでした。

最初に駐車場わきのガマズミの実を味わってもらいました。みんなおいしいと言って、しっかり味わっていました。一番下の子は特に気に入ったのか、実のたくさんついた枝を頂上までもっていき、そのベンチで再びゆっくり味わっていました。頂上を目指す登山路では、「お札の木」ミツマタの枝の強さを体感してもらいました。またフユイチゴの実も味わってもらいました。林道に出た所では、キリの木について女の子が生まれると植えることとその理由を説明しました。頂上手前にはミヤマシキミの赤い実があり、これは猛毒だから気をつけてと話しました。「野山には食べられる木の実もあるし、毒なものもあるよ。よく知っている人に聞いてから、口に入れないとね。」と話すと、皆うなずいていました。

快晴に恵まれて頂上から富士山や駿河湾もよく見え、素晴らしい展望だと皆大喜びでした。双眼鏡をお貸しして、市街の様子が手に取るように見えると楽しんでいただきました。一方、子ども達は草の上にいたイナゴを捕まえて遊んでいました。「イナゴは冬になると死んでしまうのだけれど、この子はまだ一生懸命生きているんだよ。」と話すと、「可哀想だから、安全な草の上に逃がしてあげようね。」とお母さんに諭され、子ども達はイナゴをそっと草むらに運んでいました。

下りは林道を下り、途中ではウラジロを取ってグライダー飛ばしを楽しみました。ヒノキの実を集めたり、いろいろな木の実や変わった枝葉を拾い集めたりしながら、森の恵に戻りました。4歳の子も終始元気で、自分の足で歩き切りました

(青野・小久保 記)

#### 【ミニクリスマスツリー作り】

午後は、ミニクリスマスツリー作り。参加者多数の予定だったので、全員分のテダマツのマツボックリとクルミやアラカシ、マテバシイ、クヌギなどのドングリ、それにトウヒ、アカマツ、クロマツ、メタセコイヤ、ミヤマハンノキなどの球果、ナンキンハゼ、カボチャの種、セイヨウヒイラギの葉、センリョウの実、綿など多種多様な木の実、さらに綺麗なクリスマス飾りまで用意しました。なんと贅沢な材料でしょうか。作り甲斐があるというものです。

参加者の皆さんの中には、グルーガンを初めて使う人もいたので、使い方の説明をして、始めはインストラクターに手伝ってもらいながら作業開始。使い慣れると、だんだん手際よくなっていきます。形の違うマツボックリをつなぎ合わせ、何やら怪獣でしょうか？独創的です。また、あるお母さんは、2階建てのマツボックリにして、さらに豪華さを際立たせた作品もできてきました。動物の顔に見立てたものもあります。色んな木の実を駆使して、素晴らしいミニクリスマスツリーができました。いつもそうですが、人それぞれに個性ある作品ができるものだと感心させられます。

今回は、ミニクリスマスツリーの見本を用意しなかったのが、自由な発想でミニクリスマスツリーができたのかなと思いました。

5 写真



以上のとおり、報告します。

NPO 森林インストラクターしずおか  
担当 杉山 雅章